

社会科 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 磯 崇仁

1 対象・日時 1年B組 令和8年1月23日(金) 1校時

2 本単元で育成したい資質・能力(評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。	①東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	①古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

3 単元「古代までの日本～古代の文化と東アジアとの関わり～」について

「B近世までの日本とアジア」における中項目「(1)古代までの日本」は、人類のおこりや文明の発生から12世紀ごろまでの歴史を扱い、我が国の古代までの特色を、主としてアジアを中心とした世界との関わりの中で理解することを目標にしている。そのうち、本単元「古代の文化と東アジアとの関わり」では、国際的な要素をもった文化が栄えてから文化の国風化が進んだことを理解することを目指している。また、そうした古代の文化の特色を理解するために、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することを目指している。

そこで本単元では、古代における時代ごとの文化の特色を捉えながら、古代における文化の特色やその変化について概念的に理解できるようにする。そのために、東アジアとの接触や交流による影響、それに伴う文化の変化、時代ごとの比較など、歴史的な見方・考え方を働かせながら、古代における文化の特色について多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。

その目標を達成するために、単元を貫く問い合わせ「日本の古代における文化はどのような特色をもっていたのか」と設定し、課題把握、課題追究、課題解決、新たな課題の4つの学習過程を踏まえた単元の学習を展開していく。課題追究の場面においては、飛鳥時代、奈良時代、平安時代の文化の特色について情報収集を行った上で、「日本の古代における文化はどのような特色をもっていたのか」を考察できるようにする。また、課題解決の場面においては、単元末課題を「『Fy版日本古代文化展』のキャッチコピーを考えよう！」と設定し、古代における文化の特色について概念的に理解したことやそれに向けて考察したことを生かして、企画展示のキャッチコピーを作成する活動を行う。

そして、本単元を通して学習の基盤となる資質・能力を高められるようにするために、4つの学習過程それぞれにおいて工夫した活動を行う。たとえば、課題把握や課題追究の場面では、単一の文化財や資料を読み取るだけでなく複数の文化財や資料を読み取ってそれらの共通点を見いだしたり、班で意見交換をして自身の考察を深めたりしながら、言語能力や情報活用能力を育んでいく。課題解決の場面では、企画展示のキャッチコピーを作成するという言語活動を取り入れることによって、実際の場面を想定しながら言語能力をはじめとする学習の基盤となる資質・能力を育んでいく。

4 生徒の学びの履歴

当該学年の生徒は一枚式のワークシートを用いながら、課題把握、課題追究、課題解決、新たな課題の4つの学習過程を踏まえた単元の学習を繰り返し展開している。特に、歴史的分野における「(1)古代までの日本」の先の単元でも同様の形で授業を展開してきた。ただし、本単元において授業者は当該学年の生徒とはじめて共に授業を実施していくため、机間指導や形成的な評価を丁寧に行いながら生徒理解に努め、指導と評価の一体化を実現していきたい。

5 資質・能力育成のプロセス (6時間扱い、本時 は5時間目)

次	時	評価規準 (丸番号は、2の評価規準の番号)	【 】内は評価方法 及び Cと判断する状況への手立て
1	1	知① 仮名文字の成立について理解している。 (○)	【行動の観察・ワークシートの記述の確認】 C : 生徒とともに資料を確認し、古代文化の変化について気付いたことを記述するよう促す。
2	2 3	知① 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などについて理解している。 (○) 態① 課題解決に向けて粘り強く情報を収集しようとしている。 (○)	【行動の観察・ワークシートの記述の確認】 C : 教科書等を活用し、必要な情報をワークシートに書かせながら、仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などについて情報収集させる。 【行動の観察・ワークシートの記述の確認】 C : これまでの学習においてできたことや課題などを口頭で確認しながら、ワークシートに記述させる。
4 5		態① 課題解決に向けて自らの学習を調整しながら考察しようとしている。 (○) 思① 東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 (○○)	【行動の観察・ワークシートの記述の確認】 C : 単元を貫く問い合わせについて考察する上でどのような活動ができるのかを口頭で確認しながら、ワークシートに記述させる。 【ワークシートの記述の確認・分析】 C : 前時までに収集した情報を時代ごとに整理するなどの指示を出し、そこから分かったことを記述させる。
3	6	知① 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。 (○) 態① 古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 (○)	【ワークシートの記述の分析】 C : 前時で考察したことから古代までの日本の特色を説明する上で必要なキーワードを生徒とともに確認して、自分の考えを表現する支援をする。 【ワークシートの記述の分析】 C : 学習前に記述した自分の考えを振り返らせ、授業を通して考えが変容したり深化したりしたについて口頭で問い合わせ、記述させる手助けをする。

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> 古代文化を代表する資料を提示して、そこから読み取れることや時代背景について意見を出す。 <p>【単元を貫く問い合わせ】日本の古代における文化はどのような特色をもっていたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習プランを通じて、単元の評価規準や学習計画など、学習の見通しをもつ。 単元を貫く問い合わせに対して、学習前の自分の考えを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料を提示することで、それらの資料を比較したり共通点・相違点を見いだしたりしながら、資料を読み取れるようにする。 学習前の自分の考えについて、ワークシートに記述した内容を確認し、生徒の学習前の状況を把握する。 	1
<p>【各時の問い合わせ】①飛鳥・奈良時代の文化はどのような特色をもっていたのか。②平安時代の文化はどのような特色をもっていたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 天平文化と国風文化を中心に、様々な文化財（建築、彫刻、絵画、文学など）について情報収集しながら、時代ごとの文化の特色を記述する。 収集した情報や気付いたこと等を4人班で共有し、他者の考えを追記したり、自分の考えを修正したりしながら、問い合わせに対する自分の考えをまとめる。 情報収集についての振り返りを記述し、次の考察に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書等を使って調べる際には、各時の問い合わせに対する自分の考えをまとめるために必要な情報を引き出すように促す。 生徒のワークシートの記述について机間指導を行いながら、全体へ共有すべき内容については全体指導を行う。 4人班で自分の考えを共有する際には、互いの意見に耳を傾け、必要な情報を適宜ワークシートへ追記するように促す。 生徒の振り返りの記述を確認した際には、代表的なものを取り上げて学級全体に共有しながら、今後の学習へ生かせるようにする。 	2 3
<ul style="list-style-type: none"> 「日本の古代における文化はどのような特色をもっていたのか」についての考察に向けた見通しを記述し、その後の活動に生かす。 記述した見通しに沿って収集した情報を整理したり分析したりしながら、古代の文化やその時代の特色を考察する。 分析した内容を4人班で共有し、他者の考えを追記したり、自分の考えを修正したりする。 単元末課題に備えて、古代の文化や時代の特色を一言で表した「Fy版日本古代文化展」のキャッチコピーの案を記述しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを記述する際には、考察において歴史的な見方・考え方（時期や年代、推移、変化、相互の関連など）を働きかせられるように具体例を挙げながら指導する。 収集した情報を活用する際には、思考ツールなどを適宜用いながら、古代の特色について多面的・多角的に考察できるように指導する。 生徒のワークシートの記述について机間指導を行いながら、全体へ共有すべき生徒の記述については全体で共有する。 4人班で記述した内容を共有する際には、それぞれがその判断の根拠とした部分を比較しながら、参考となる意見は適宜ワークシートへ追記するように促す。 	4 5
<p>【単元末課題】「Fy版日本古代文化展」のキャッチコピーを考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> 「日本の古代における文化はどのような特色をもっていたのか」という単元を貫く問い合わせについて、単元末課題に即して、自分の考えをまとめる。 ワークシートに、単元の学びを終えて自分の思考がどのように変容したり深化したりしたのかを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで、古代の特色について多面的・多角的に考察した成果を発揮して、自分の考えを表現するように促す。 これまで記述した学習前の自分の考え、授業時の振り返り等を参考にしながら、単元末の振り返りをワークシートに記述し、本単元の学習での成果と課題を、次回以降の単元へつなげられるようにする。 	6

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

歴史的な見方・考え方を働かせて、古代の文化について多面的・多角的に考察し、表現することに向けた粘り強い取組を行おうとしたり、自らの学習を調整しようとしたりしている姿。



【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

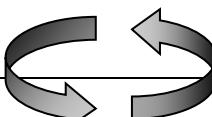
「B (1) 古代までの日本」における「ア(イ) 古代の文化と東アジアとの関わり」で示された知識を身に付けることを目標とする。その目標を達成するために、単元を貫く問い合わせ「日本の古代における文化はどのような特色をもっていたのか」と設定し、その課題について追究したり解決したりする活動を展開する。課題追究における情報収集の場面では、飛鳥時代、奈良時代、平安時代の文化について調べたり資料を読み取ったりすることで、仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などについて理解できるように指導する。また、課題追究における考察の場面では、歴史的な見方・考え方を働かせて、収集した情報を整理したり分析したりすることで、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解できるように指導する。その指導においては、机間指導やワークシートの確認などを丁寧に行い、生徒の記述を確認することで、その取組の状況を適宜評価し、指導改善につなげるよう努める。また、「『Fy 版日本古代文化展』のキャッチコピーを考えよう！」という単元末課題を設定することで、古代の文化について概念的に理解した成果を發揮できるようにする。単元末課題の記述を分析することで記録に残す評価を行う。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

「B (1) 古代までの日本」におけるイ(ア)で示された思考力、判断力、表現力等を身に付けることを目標とする。したがって、古代の文化について学習を通して、「日本の古代における文化はどのような特色をもっていたのか」という単元を貫く問い合わせの解決に向けて、古代における文化の特色を多面的・多角的に考察できるようにする。考察の際には、古代の文化がどのように変わってきたのか（時期や年代、推移）を明らかにしたり、古代の文化が他の事象からどのような影響を受けてきたのか（相互の関連）を明らかにしたりするなど、歴史的な見方・考え方を働かせられるように指導する。その指導においては、上記1で示したことと同様に、取組の状況を適宜評価し、指導改善につなげるよう努める。また、考察において、単元末課題に向けて古代の文化を概念的に理解したり、それを基にキャッチコピーを作成したりすることへつなげられるようにする。課題追究における考察の場面の最後にワークシートに記述したまとめを分析することで記録に残す評価を行う。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

歴史的分野の目標にあるように、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うことを目標とする。特に、粘り強い取組を行おうとしたり自らの学習を調整しようとしたりできるように、単元を貫く問い合わせに対する学習前の自分の考え、情報収集の振り返り、考察の見通し、単元末の振り返りなど、適宜自らの学習を見通したり振り返ったりする場面を設ける。それらの記述を確認することで、単元を貫く問い合わせについて主体的に追究、解決するための指導に生かしていく。また、単元末にワークシートに記述した振り返りを分析することで記録に残す評価を行う。



【本単元の学習と「学習の基盤となる資質・能力」とのつながり】

- ・課題追究における情報収集の場面では、様々な文化財や資料を読み取って新たな知識を得ることで**言語能力**の育成につなげたり、そこから得た情報を組み合わせて概念的な理解を身に付けることで**情報活用能力**の育成につなげたりする。
- ・課題追究における考察の場面では、収集した情報を活用しながら考察することで**情報活用能力**の育成につなげたり、自分の考えをまとめて他者と協働的に考えを深めることで**言語能力**の育成につなげたりする。
- ・課題解決の場面では、企画展示のキャッチコピーを作成するという言語活動を通して自分の考えをまとめることで**言語能力**の育成につなげる。
- ・単元全体を通して、学習の見通しを立てたりそれを振り返ったりしながら課題の解決に向かうことで、**問題発見・解決能力**の育成につなげる。